



平成 22 年 7 月 9 日

各 位

会社名 株式会社竹内製作所
 代表者名 代表取締役社長 竹内 明雄
 (JASDAQ・コード 6432)
 問合せ先 取締役経営企画室長 神山 輝夫
 電話番号 0268-81-1100 (代表)

平成 23 年 2 月期第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 22 年 4 月 14 日付「平成 22 年 2 月期 決算短信」において発表いたしました平成 23 年 2 月期（平成 22 年 3 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日）の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 23 年 2 月期 第 2 四半期累計期間業績予想の修正(平成 22 年 3 月 1 日～平成 22 年 8 月 31 日)

(1) 修正の内容

【連結】

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	18,000	△100	△100	△190	△11.63
今回修正 (B)	17,720	△260	△570	△710	△43.47
増減額 (B-A)	△280	△160	△470	△520	—
増減率 (%)	△1.6	—	—	—	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 2 月期第 2 四半期)	10,454	△31	817	885	55.34

【個別】

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	14,700	△430	△400	△410	△25.10
今回修正 (B)	14,410	△890	△1,120	△1,130	△69.19
増減額 (B-A)	△290	△460	△720	△720	—
増減率 (%)	△2.0	—	—	—	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 2 月期第 2 四半期)	—	—	—	—	—

(2) 修正の理由

【連結】

本年5月以降の急激な円高により、業績予想の前提としている外国為替レートと現状の外国為替市場の為替レートが乖離していることから、業績予想の前提としている外国為替レートを変更いたしました。前回予想の外国為替レートは、1米ドル=95円、1英ポンド=148円、1ユーロ=128円、1人民元=13.5円でしたが、第2四半期以降の外国為替レートは、1米ドル=90円、1英ポンド=135円、1ユーロ=112円、1人民元=13.3円に変更いたしました。

円高への対応として外貨建てで販売している顧客に対して販売価格を本年8月以降値上げすることといたしました。円高による売上高減少をカバーできないことから、売上高は前回予想よりも2億8千万円減少し177億2千万円になる見通しであります。

利益の面では、売上高の減少により営業損失は前回予想よりも1億6千万円増加し2億6千万円になる見通しであります。営業外費用において、円高により外貨建債権などに為替差損が3億2千3百万円発生することが見込まれることから、経常損失は4億7千万円増加し5億7千万円になる見通しであります。第2四半期累計期間の四半期純損失は、前回予想よりも5億2千万円増加し7億1千万円になる見通しであります。

【個別】

売上高につきましては、上記の連結と同様の理由により、前回予想よりも2億9千万円減少し144億1千万円になる見通しであります。

利益の面では、売上高の減少に加え円高によって外貨建販売価格の円換算額が低下することから棚卸資産の評価損が見込まれ、営業損失は前回予想よりも4億6千万円増加し8億9千万円になる見通しであります。営業外費用において、円高により外貨建債権に為替差損が2億5千3百万円発生することが見込まれることから、経常損失は7億2千万円増加し11億2千万円になる見通しであります。第2四半期累計期間の四半期純損失は、前回予想よりも7億2千万円増加し11億3千万円になる見通しであります。

2. 平成23年2月期 通期業績予想の修正(平成22年3月1日～平成23年2月28日)

(1) 修正の内容

【連結】

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	33,600	△90	△90	△250	△15.31
今回修正 (B)	32,970	△320	△630	△850	△52.05
増減額 (B-A)	△630	△230	△540	△600	—
増減率 (%)	△1.9	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成22年2月期)	23,199	△482	△131	△205	△12.73

【個別】

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	27,000	△630	△540	△570	△34.90
今回修正 (B)	26,550	△1,200	△1,370	△1,400	△85.72
増減額 (B-A)	△450	△570	△830	△830	—
増減率 (%)	△1.7	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成22年2月期)	12,313	△1,566	△1,072	△701	△43.42

(2) 修正の理由

【連結】

上記の第2四半期累計期間の修正の内容と同様の理由により、売上高は前回予想よりも6億3千万円減少し329億7千万円になる見通しであります。

利益の面では、売上高の減少により営業損失は前回予想よりも2億3千万円増加し3億2千万円になる見通しであります。営業外費用において、円高により外貨建債権などに為替差損が3億2千3百万円発生することが見込まれることから、経常損失は5億4千万円増加し6億3千万円になる見通しであります。当期純損失は、前回予想よりも6億円増加し8億5千万円になる見通しであります。

【個別】

上記の第2四半期累計期間の修正の内容と同様の理由により、売上高は前回予想よりも4億5千万円減少し265億5千万円になる見通しであります。

利益の面では、売上高の減少に加え円高によって外貨建販売価格の円換算額が低下することから棚卸資産の評価損が見込まれ、営業損失は前回予想よりも5億7千万円増加し12億円になる見通しであります。営業外費用において、円高により外貨建債権に為替差損が2億5千3百万円発生することが見込まれることから、経常損失は8億3千万円増加し13億7千万円になる見通しであります。当期純損失は、前回予想よりも8億3千万円増加し14億円になる見通しであります。

以上

※ 業績予想等の適切な利用に関する説明

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。